

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名				
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦							
112	4	新冠町	1	有形	2	非現存	1	産業	1	農業	新冠牧馬場・旧牧場跡	朝日	明治5	1872	現在の農林水産省家畜改良センターの発祥となるもので、当時、ウルク山を中心に3,888,000坪と広大な牧場であったが、エドウィン・ダンの指導により静内に新冠牧馬場の中心を置いたので、「旧牧場」の名称と呼ばれた。ほぼ南端にあたるところに「新冠牧馬場跡」の案内板が残っているといわれる。	にいかづぶの石碑 ふるさとの木史跡 記念物、エドウィン・ダンと新冠牧馬場の歴史への誘い
113	4	新冠町	1	有形	2	非現存	1	産業	5	工・鉱業	ハッカ工場跡	美宇	不明	不明	昭和13(1938)頃に、新冠沢にハッカが栽培されはじめ、各地に建てられた蒸留工場の一つ。	にいかづぶの石碑 ふるさとの木史跡 記念物、新冠町教育委員会
114	4	新冠町	1	有形	1	現存	2	宗教	10	寺社等	新冠聖フランシス教会	緑丘	明治3 (創建)	1870	「アイヌの父」と呼ばれたジョン・パチュラーが、アイヌの人への伝道を目的に高江村に講義所として創設したものの、その後、緑丘に移転したため、昭和53(1978)に新築された。	続新冠町史、日高支庁HP
115	4	新冠町	1	有形	1	現存	2	宗教	10	寺社等	氷川神社	東3-1	不明	不明	須佐之男命を祭神とし、本社は埼玉県大宮市の氷川神社。同じ名を持つものは東京や埼玉などに多いが、北海道ではここが唯一である。	続新冠町史
116	4	新冠町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	新冠会所跡の墓標	高江	安政5～	1858～	新冠町発祥の地と呼ばれている判官館の前浜にある3基の墓標。等・院の過去帳で、江戸時代に新冠会所で勤務していた武士であることが判明している。安政5、(1858)のものは石坂与十郎の墓、天保12(1841)のものは大崎千蔵の墓、他の1基については無名。	にいかづぶの石碑ふるさとの木史跡記念物、続新冠町史
117	4	新冠町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	新冠町の社日碑	朝日	大正12?	1923?	五穀の豊穡と収穫を感謝する農業神を祭るもので、新冠町では、朝日、新和などのものが知られている。神森(神森会館横)のものは5角柱で、明治34(1901)に設けられ日高管内で現存する最古のものといわれる。	にいかづぶの石碑ふるさとの木史跡記念物、続新冠町史
118	4	新冠町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	馬頭観世音碑	高江	天保6	1835	農村環境改善センター横のお堂に安置されており、海岸に打ち上げられたものを拾ってきたものといわれる。	続新冠町史
119	4	新冠町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	大狩部遺跡	大狩部581～4、581～5、140、226	—	—	厚別川左岸標高約35mの舌状台地上に位置し、現在は牧草地となっている。昭和34～35(1959から1960)に発掘調査され、15基の墓壇群が発見される。出土した土器は、続縄文時代初頭の土器編年を考える上で重要であり「大狩部土器」と呼ばれる。	続新冠町史
120	4	新冠町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	ビボクチャシ跡	新冠川河口北側	—	—	標高約40mの岬上にある。アイヌの人—にはチノミシリ(われら・祭る・山)と呼ばれ、また、源義経が館を築いたという伝承があり、判官館という名で親しまれている。	続新冠町史
121	4	新冠町	1	有形	2	非現存	4	教育	13	学校	古川教育所	万揃村	明治29	1896	アイヌの児童への教育として、新冠御料牧場の牧夫であった古川足(アシノカル)が私財を投じて開いた。ここでの教育は、パチュラーが明治31(1898)に山高江に開いた新冠(高江)講義所へ引き継がれる。	続新冠町史
122	4	新冠町	1	有形	1	現存	1	産業	14	その他建築物	新冠会所跡の建物	本町	明治32	1899	新冠会所前にあった大きな建物を解体し、その1部で住宅として建てられたもので、現在も残っている。	にいかづぶの石碑 ふるさとの木史跡 記念物、新冠町教育委員会
123	4	新冠町	1	有形	1	現存	4	教育	14	その他建築物	新冠町郷土資料館	中央町	昭和56	1981	新冠町開町百年記念事業として建設。郷土に古くからある遺物・生活用品を始め、産業用品、世界及び日本の馬の民芸品と玩具等が展示され、新冠町の歴史と産業を一目で分かるようにマルチビジョンが整備されている。ビデオカメラによる町史映像記録、アイヌ民族調査、古老談の聞き取り調査などを行っている。	続新冠町史、日高支庁HP、北海道新博物館ガイド
124	4	新冠町	1	有形	2	非現存	4	教育	15	人物	古川足(アシノカル)	—	不明	不明	下下方村目名の生まれで「アイヌの中の資産家」といわれた人物。万揃村から元神部村にかけ、113万6千坪の買与地を得て牧場を営んでいた。明治29(1896)、私財を投じてアイヌの児童への教育として古川教育所を開いた。	続新冠町史
125	4	新冠町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	判官館(はんがんだて)	高江	不明	不明	文治5(1189)、兄頼朝に追われ北海道に渡った義経が、雪が少なく暖かいこの場所の要害堅固な巨岩に館を作ったといわれる。しかし、判官館という地名は近年伝えられるようになったとされており、古くは地元アイヌの人—がボロヌプリ(大山又は親山)とよんで酒を捧げるなどして大事にしていたところであり、アイヌの人—の伝承の地に義経を結び付けたもの一つとなっている。	続新冠町史、史跡と名勝、にいかづぶの石碑ふるさとの木史跡記念物
126	4	新冠町	2	無形	1	現存	5	伝統	16	民話・伝説等	新冠川にサケが遡上しなくなった理由	—	—	—	昔は、ヤナギの木で作ったイサバキクニを使ってサケを獲っていたが、草刈鎌(魔物を追い払うのに使うといわれる。)が使われるようになって、新冠川にサケがあまり上らなくなったといわれる。	続新冠町史
127	4	新冠町	1	有形	2	非現存	1	産業	99	その他	新冠会所	高江	寛政11	1799	寛政11(1799)に、北方警備を強化するため幕府の直捌きとなって、請負制が廃止された際、運上屋を会所としてニイカッ河口から判官館西側へ移設された。座敷3間、帳場、支配人番屋などがあり、その他に渡船や井戸、旅宿などが建てられた。明治2(1869)には本陣に改称され、明治5(1872)には駅通と呼ばれ宿泊や郵便の業務を行った。エドウィン・ダンも巡視の際にたびたび宿泊したといわれる。	にいかづぶの石碑 ふるさとの木史跡 記念物、日高支庁HP、続新冠町史、エドウィン・ダンと新冠牧馬場の歴史への誘い
128	4	新冠町	2	無形	1	現存	4	教育	99	その他	新冠町郷土文化研究会	—	昭和59	1984	郷土の歴史や文化遺産を知り、それを継承することを目的に結成される。古老からの聞き取りによる開拓史調査や化石発掘調査などの調査研究活動、郷土研究史の発行などを行っている。	続新冠町史、ほっかいどう芸術・文化活動団体名鑑2000年度
129	4	新冠町	2	無形	1	現存	5	伝統	99	その他	新冠民族文化保存会	—	平成元	1989	北海道ウタリ協会新冠支部の有志を集めて結成。アイヌ民族の有形文化(ごぎ編み、衣装作りなど)や無形文化(語り、料理)を文化祭や展示会等を当として紹介し、アイヌ文化に対する理解を広める活動を行っており、昭和59(1984)に国の重要無形民族文化財に指定された「アイヌ古式舞踊」の保存団体として、平成6(1994)に指定され、その伝承を行っている。	続新冠町史
130	4	新冠町	2	無形	2	非現存	1	産業	99	その他	新冠場所	新冠郡一帯	不明	不明	場所制度とは、蝦夷地では米作が石高制をもって家臣の給料を定めることができなかったため、松前藩が交易その他による収益を見込んで各地を場所と区分し、これを知行として家臣に配分する方法で、当初「オムシャ」といわれる方法でアイヌの人—と交易を行っていたが、その後、場所請負制がとられ、請負人や支配人によって運営されるようになったが、アイヌの人—を酷使し、また、不当な交易をすることが多かったといわれる。慶長年間または寛永年代には開設されていたといわれ、松前藩家臣工藤家が長く知行主となっていた。この頃は「ビボク」という名であったが、文化6(1809)に「ニイカツ」と改めた。その後、場所請負制となり天明6(1786)には阿部屋傳吉が、寛政4には鎌田駒吉が請負人となって経営を行った。寛政11(1799)には、北方警備のため幕府の直捌きとなり、請負制を廃止し、運上屋を会所としてニイカッ河口から判官館西側へ移設されたが、その後、文化9(1812)に幕府も請負制をとり、函館の浜田屋が請け負うこととなり、幕末期まで続くこととなる。文政4(1821)には、蝦夷地が松前藩に戻されたが、安政2(1855)には再び幕府直轄となり、分領支配となって仙台藩が担当となった。	続新冠町史